

びわこ学院大学・びわこ学院大学短期大学部  
令和5(2023)年度 自己点検・評価報告書

基準1	使命・目的等	… 1
基準2	学生	… 3
	2-1 学生の受入れ	
	2-2 学修支援	
	2-3 キャリア支援	
	2-4 学生サービス	
	2-5 学修環境の整備	
	2-6 学生の意見・要望への対応	
基準3	教育課程 (四/短)	… 9
	3-1 単位認定、卒業認定、修了認定	
	3-2 教育課程及び教授方法	
	3-3 学修成果の点検・評価	
基準4	教員・職員	…13
	4-1 教学マネジメントの機能性	
	4-2 教員の配置・職能開発等	
	4-3 職員の研修	
	4-4 研究支援	
基準5	経営・管理と財務	…17
	5-1 経営の規律と誠実性	
	5-2 理事会の機能	
	5-3 管理運営の円滑化と相互チェック	
	5-4 財務基盤と収支	
	5-5 会計	
基準6	内部質保証	…19
	6-1 内部質保証の組織体制	
	6-2 教育課程及び教授方法	
	6-3 学修成果の点検・評価	



## 令和5（2023）年度 自己点検・評価シート

基準1	使命・目的等	担当	大学運営協議会、企画運営会議
-----	--------	----	----------------

### ■ 確認

《前年度の改善計画(改善計画がある場合のみ)》

項目No.	改善計画
11	特になし
12	特になし

### ■ 自己点検・評価

#### I. 評定

項目No	評価項目 <高等教育評価機構の「基準項目」に相当> 点検項目 <高等教育評価機構の「評価の視点」に相当>	現状の自己評価
11	使命・目的及び教育目的の設定 ① 意味・内容の具体性と明確性 ② 簡潔な文章化 ③ 個性・特色の明示 ④ 変化への対応	達成している
12	使命・目的及び教育目的の反映 ① 役員、教職員の理解と支持 ② 学内外への周知 ③ 中長期的な計画への反映 ④ 三つのポリシーへの反映 ⑤ 教育研究組織の構成との整合性	達成している

#### II. 項目ごとの簡潔な説明

11	① 建学の精神を基づいた本学の目的を本学学則第1条に具体的かつ明確に定めている。 ② 学科の目的について、学則第1条第2項に平易かつ簡潔に文章化している。 ③ 学科が養成する人材像等について、「学則」「大学案内」「大学ホームページ」にて明示している。 ④ 「中期目標・中期計画」の振り返り及び見直しを毎年組織的に行っている。
12	① 本学の目的は、学則第1条に規定し、「学生ハンドブック」、「大学ホームページ」に明示している。理事会や評議員会において、本学の使命、教育目的の取り組み方針等について毎年報告し、十分な理解と承認が得られている。 ② 「大学ホームページ」「大学案内」「紫野（広報誌）」「学生ハンドブック」等の印刷物に掲載することにより学内外に周知している。 ③ 本学の使命や目的等は「中長期ビジョン」「中期目標・中期計画」に反映している。 ④ 学科ごとに大学の使命・目的及び教育目的を実現するために三つのポリシーを定め、教育体制と教育内容の整合を図っている。 ⑤ 機能的かつ効果的な教育が期待しうる適正な教員数を確保し、教育目的の実現にあたっては、小規模校の利点を活かした教育効果の高い大学であるための体制を整備している。

効果が上がっている事項

11	
12	③ 自己点検・評価委員会を中心に、令和6（2024）年度から令和10（2028）年度「中期目標・中期計画」を策定することができた。 ④ 外部評価委員及び自己点検・評価委員から三つのポリシーの意見を集約し、外部評価委員会で検討することができた。

改善すべき事項

11	特になし
12	特になし

#### III. 前年度の改善計画に対する取り組み

	■ 確認欄で記載された内容についての、取り組み状況
	特になし

## IV. 根拠資料

項目 No	根拠 記号	根拠資料の名称
11	①	学則
11	②	学則
11	③	学則
11	③	CAMPUS GUIDE 2024
11	③	ホームページ 基本理念と教育目標 <a href="https://www.biwakogakuin.ac.jp/introduction/idea">https://www.biwakogakuin.ac.jp/introduction/idea</a>
11	④	中期目標・中期計画（2019～2023年度）
12	①	学則
12	①	2023学生ハンドブック
12	①	ホームページ 基本理念と教育目標 <a href="https://www.biwakogakuin.ac.jp/introduction/idea">https://www.biwakogakuin.ac.jp/introduction/idea</a>
12	②	ホームページ 基本理念と教育目標 <a href="https://www.biwakogakuin.ac.jp/introduction/idea">https://www.biwakogakuin.ac.jp/introduction/idea</a>
12	②	CAMPUS GUIDE 2024
12	②	広報誌「紫野」15号
12	②	2023学生ハンドブック
12	③	びわこ学院大学・びわこ学院大学短期大学部 中長期ビジョン
12	③	びわこ学院大学 中期目標・中期計画（2019～2023年度）
12	④	三つのポリシー（2023学生ハンドブック、CAMPUS GUIDE 2024）
12	④	外部評価委員会 議事録
12	⑤	組織運営規程、教学組織図

令和5（2023）年度 自己点検・評価シート

基準2	学生（2-1 学生の受入れ）	担当	入試広報委員会
-----	----------------	----	---------

■ 確認

《前年度の改善計画(改善計画がある場合のみ)》

項目No.		改善計画
21	③	入学定員を充足させるため、全学一丸となって取り組む必要がある。

■ 自己点検・評価

I. 評定

項目No	評価項目 点検項目 <高等教育評価機構の「評価の視点」に相当>	現状の自己評価
21	学生 <span style="font-size: small;">の受入れ</span>	概ね達成している
	① 教育目的を踏まえたアドミッション・ポリシーの策定と周知 ② アドミッション・ポリシーに沿った入学者受入れの実施とその検証 ③ 入学定員に沿った適切な学生受入れ数の維持	

II. 項目ごとの簡潔な説明

21	① 随時、会議で確認・検討し、募集活動や印刷物等に掲載し周知 ② 募集要項には評価項目を含め掲載し受け入れ。入学後、担当教員と面談し検証。 ③ 進路ガイダンスなどで低学年からの接触を強化、OC、高大連携等の強化に努める。
----	--

効果が上がっている事項

21	① 広報印刷物、Webサイトなどで周知してきたことから認知されるようになった。
----	---

改善すべき事項

21	③ 関心を持たせることはできているが、志願者数を増加させるまでは至っていない。さらなる魅力開発に努力する必要がある。
----	--

III. 前年度の改善計画に対する取り組み

	■ 確認欄で記載された内容についての、取り組み状況
21	・ SNSを用いての広報や個人相談 ・ インターネット出願の定着化 ・ 教員による高校訪問（短大）

IV. 根拠資料

項目No	根拠記号	根拠資料の名称
21	①	CAMPUS GUIDE 2024
21	①	令和6年度（2024）年度入試 学生募集要項
21	①	令和6年度（2024）年度入試 総合型選抜（AO）ガイド
21	①	ホームページ 入試情報 アドミッション・ポリシー
21	①	2024年度入試ダイジェスト
21	②	びわこ学院大学・短期大学部 入学試験の組織体制
21	②	びわこ学院大学・短期大学部 入試広報委員会規程
21	②	入試別 1年次GPA比較、GPS-Academic（ベネッセ）
21	③	令和6年度 入試結果

## 令和5（2023）年度 自己点検・評価シート

基準2	学生（2-2 学修支援）	担当	教務委員会 実習・実践支援委員会
-----	--------------	----	---------------------

### ■ 確認

《前年度の改善計画(改善計画がある場合のみ)》

項目No.		改善計画
22		特になし

### ■ 自己点検・評価

#### I. 評定

項目No	評価項目 点検項目 <高等教育評価機構の「評価の視点」に相当>	現状の自己評価
22	学修支援 ① 教員と職員等の協働をはじめとする学修支援体制の整備 ② TA (Teaching Assistant) 等の活用をはじめとする学修支援の充実	達成 している

#### II. 項目ごとの簡潔な説明

22	① 学生カルテを用いた教職員の情報共有、学修の記録を用いたクラス担任の面談実施など、学修支援体制が構築できている。 ② 修学特別支援室、オフィスアワー制度、SA制度、学外実習支援の仕組みが整備されている。欠席が多い学生を学期始めに把握し、クラス・ゼミ担任が面談している。
----	--

効果が上がっている事項

22	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ オンライン授業の経験から、ポータルサイト、GoogleClassroom、ビデオ会議システムの活用が広がっていることは、学修支援体制の強化の一例と言える。</li> </ul>
----	---

改善すべき事項

22	特になし
----	------

#### ■ 確認欄で記載された内容についての、取り組み状況

	特になし
--	------

#### IV. 根拠資料

項目No	根拠記号	根拠資料の名称
22	①	BIWAGAKUPORTAL ユーザーガイド
22	①	基礎学力等講座日程、ピアノ個人レッスン案内
22	②	修学特別支援室規程、学生相談室内規
22	②	オフィスアワー日程表
22	②	スチューデントアシスタント説明会資料、スチューデントアシスタント実績報告書
22	②	欠席の目立つ学生を集計した資料
22	②	令和3（2021）年度 退学者対策プロジェクト
22	②	令和5（2023）年度 学生ハンドブック
22	②	令和5（2023）年度 学外実習関連資料

## 令和5（2023）年度 自己点検・評価シート

基準2	学生（2-3 キャリア支援）	担当	キャリア支援委員会
-----	----------------	----	-----------

### ■ 確認

≪前年度の改善計画(改善計画がある場合のみ)≫

項目No.		改善計画
23		特になし

### ■ 自己点検・評価

#### I. 評定

項目No	評価項目 点検項目 <高等教育評価機構の「評価の視点」に相当>	現状の自己評価
23	キャリア支援	概ね達成している
	① 教育課程内外を通じての社会的・職業的自立に関する支援体制の整備	

#### II. 項目ごとの簡潔な説明

23	① 学内で情報共有・連携を進め、教育課程内外における支援体制を整備している。 効果が上がっている事項
23	びわ学キャリア塾（教師塾、福祉塾、仕事塾）の充実と安定した就職実績 改善すべき事項
23	採用試験の内容・時期変更に対応する支援体制の再構築

#### III. 前年度の改善計画に対する取り組み

	■ 確認欄に記載された内容についての、取り組み状況
	特になし

#### IV. 根拠資料

項目No	根拠記号	根拠資料の名称
23	①	令和5（2023）年度 就職先一覧
23	①	令和5（2023）年度 各種支援プログラム

## 令和5（2023）年度 自己点検・評価シート

基準2	学生（2-4 学生サービス）	担当	学生委員会
-----	----------------	----	-------

### ■ 確認

◀前年度の改善計画(改善計画がある場合のみ)▶

項目No.	改善計画
24	特になし

### ■ 自己点検・評価

#### I. 評価

項目No	評価項目 <高等教育評価機構の「基準項目」に相当> 点検項目 <高等教育評価機構の「評価の視点」に相当>	現状の自己評価
24	学生サービス	概ね達成している
	① 学生生活の安定のための支援	

#### II. 項目ごとの簡潔な説明

24	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生サービス、厚生補導を所管する「学生委員会」を設置し、事務組織としては「学生支援課」が担当している。学生委員会は毎月定例会議を開催し、教職員で情報を共有し対応にあたっている。</li> <li>・ 日本学生支援機構奨学金、各種修学資金（保育士・介護福祉士）に加え、本学独自の奨学金制度を設置しており、令和5年度は当該制度の見直し会議を行い、問題点等について検討した。</li> <li>・ 学外施設利用時の補助など課外活動にかかる支援の充実を図っている。</li> <li>・ 保健室、非常勤カウンセラーが中心となって、学生の心身に関する健康相談や心的支援にあたっている。また、修学特別支援室運営会議の中で、可能な合理的配慮について協議し、関係教職員に周知している。</li> </ul>
----	--

効果が上がっている事項

24	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 非常勤カウンセラーの配置による相談体制の充実</li> <li>・ 学内奨学金制度の検討と見直し</li> </ul>
----	--

改善すべき事項

24	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学内奨学生制度の在学生進路保障を確たるものとする支援の充実を図る。</li> </ul>
----	---

#### III. 前年度の改善計画に対する取り組み

	■確認欄で記載された内容についての、取り組み状況
	特になし

#### IV. 根拠資料

項目No	根拠記号	根拠資料の名称
2-4	①	令和5(2023)年度学生委員会資料、議事録
2-4	①	日本学生支援機構奨学金 受給・貸与者数
2-4	①	奨学生規程（特別奨学生、スポーツ特待生、スポーツ特別奨学生、学費減免）
2-4	①	資格取得奨励金制度規程、及び実績
2-4	①	令和5(2023)年度学内奨学金制度見直し検討委員会資料、記録
2-4	①	令和5(2023)年度部・サークルの状況、代表者会議資料
2-4	①	令和5(2023)年度布引運動公園利用状況
2-4	①	びわこ学院大学・びわこ学院大学短期大学部学生相談室内規
2-4	①	令和5(2023)年度保健室・カウンセリング利用状況



## 令和5（2023）年度 自己点検・評価シート

基準2	学生（2-5 学修環境の整備）	担当	総務課、図書館委員会 教務委員会
-----	-----------------	----	---------------------

### ■ 確認

《前年度の改善計画(改善計画がある場合のみ)》

項目No.	改善計画
25	① 避難経路について、手すりの設置等の整備計画の検討が必要である。 ② ラーニングコモンズの利用ルール等について更なる工夫が必要であった。（図書館） ② 利用を学内者に限定したため学外者対応における問題点等を検証できなかった。（図書館）

### ■ 自己点検・評価

#### I. 評定

項目No	評価項目 <高等教育評価機構の「基準項目」に相当> 点検項目 <高等教育評価機構の「評価の視点」に相当>	現状の自己評価
25	学修環境の整備 ① 校地、校舎等の学修環境の整備と適切な運営・管理 ② 実習施設、図書館等の有効活用 ③ バリアフリーをはじめとする施設・設備の利便性 ④ 授業を行う学生数の適切な管理	概ね達成している

#### II. 項目ごとの簡潔な説明

25	① 校地、校舎及び施設・設備等の学修環境については、それぞれ設置基準を満たしており教育目的を達成するための環境は適正に整備し、有効に活用されている。 ② 実習施設、図書館等については、教育目的を達成するための環境が適正に整備され、それぞれが有効に活用されている。 ③ 大学施設全般についてのバリアフリーや建築物の耐震基準などの安全性は確保されており、学内LANやIT機器・設備など情報教育基盤も整っている。 ④ クラスに分割等、学修効果を上げるためのきめ細かな指導を可能としている。
----	--

効果が上がっている事項

25	① 外壁・防水・空調機器は、設置後の経過年数が長い箇所から順次整備している。 ② リクエスト制度等の積極的な活用により利用者ニーズに合致した資料の収集が進んだ。（図書館） ② ラーニング・コモンズの利用形態の多様化により利用者の幅が広がった。（図書館） ③ ピロティの改修工事を行い、段差をなくしたため、バリアフリーとなった。
----	--

改善すべき事項

25	① 避難経路について、手すりの設置等の整備計画の検討が必要である。 ② 図書資料購入予算の執行が年内に集中し年度末の予算不足を招いた。（図書館） ② 収蔵スペースの狭隘化に対する効果的な対策を見出すことができなかった。（図書館）
----	--

#### III. 前年度の改善計画に対する取り組み

	■確認欄で記載された内容についての、取り組み状況
25	① 手すり設置の見積書を取り、予算計上の検討をしている。 ② ラーニング・コモンズの利用目的の明確化により良好な利用環境の保持に努めた。（図書館） ② 利用申請時の意思疎通により学外者に対しルール・マナー厳守の周知徹底を図った。（図書館）

#### IV. 根拠資料

項目No	根拠記号	根拠資料の名称
25	②	図書館 利用の手引き 2023
25	②	令和5（2023）年度 図書館利用状況
25	②	図書館だより（第15号）
25	②	図書館通信（No.15）
25	②	ラーニングコモンズ 利用要項
25	②	図書館 学外者利用内規

## 令和5（2023）年度 自己点検・評価シート

基準2	学生（2-6 学生の意見・要望への対応）	担当	学生委員会
-----	----------------------	----	-------

### ■ 確認

《前年度の改善計画(改善計画がある場合のみ)》

項目No.		改善計画
26		特になし

### ■ 自己点検・評価

#### I. 評定

項目No	評価項目 <高等教育評価機構の「基準項目」に相当> 点検項目 <高等教育評価機構の「評価の視点」に相当>	現状の自己評価
26	学生の意見・要望への対応 ① 学修支援に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用 ② 心身に関する健康相談、経済的支援をはじめとする学生生活に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用 ③ 学修環境に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用	概ね達成している

#### II. 項目ごとの簡潔な説明

26	① 授業については、「授業評価アンケート」「授業改善アンケート」を通して学生の要望を把握し、授業担当教員が対応する体制を構築している。 ② クラス・ゼミ担当教員が、毎学期学生と個別面談を実施し、学生生活に関する相談や意見を聞く機会を設けている。「学生近況報告」また、修学特別支援室運営会議の中で、可能な合理的配慮について協議し、関係教職員に周知している。 ①② 「学生生活アンケート結果」「卒業時アンケート結果」「学長と学生の懇談会」を通じて ③ 学生の意見・要望を把握し、委員会等で分析を行い、必要な対策を検討している。
----	--

効果が上がっている事項

26	①② ③ 食堂のメニュー表に食物アレルギーに関する表示を徹底した。 ②③ スクールバスの増便要望に対応するため時刻表の見直しを行い、令和6年度からの増便を決定した。
----	---

改善すべき事項

26	各種アンケート調査の有効活用
----	----------------

#### III. 前年度の改善計画に対する取り組み

	■ 確認欄で記載された内容についての、取り組み状況
	特になし

#### IV. 根拠資料

項目No	根拠記号	根拠資料の名称
2-6	①	令和5（2023）年度春・秋学期 授業改善アンケート結果、授業評価アンケート結果
2-6	①	令和5（2023）年度学生生活アンケート結果、卒業時アンケート結果
2-6	①	令和5（2023）年度学長と学生の懇談会（学生の意見概要）
2-6	③	びわこ学院大学・びわこ学院大学短期大学部学生駐車場利用内規

令和5（2023）年度 自己点検・評価シート 【四】

基準3 教育課程 (3-1 単位認定、卒業認定、修了認定) (3-2 教育課程及び教授方法) (3-3 学修成果の点検・評価)	担当	教務委員会 FD委員会
--	----	----------------

■ 確認

《前年度の改善計画(改善計画がある場合のみ)》

項目No.	改善計画
31	成績評価基準の見直し・・・「成績評価」結果を踏まえ、基準の改廃やGPA制度の見直しを含めた議論が必要である。
32	特になし
33	DPルーブリックの面談結果の検証

■ 自己点検・評価

I. 評定

項目 No	評価項目 <高等教育評価機構の「基準項目」に相当>	現状の自己評価
	点検項目 <高等教育評価機構の「評価の視点」に相当>	
31	単位認定、卒業認定、修了認定	概ね達成している
	① 教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーの策定と周知	
	② ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等の策定と周知 ③ 単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等の厳正な適用	
32	教育課程及び教授方法	概ね達成している
	① カリキュラム・ポリシーの策定と周知	
	② カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの一貫性	
	③ カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成	
	④ 教養教育の実施 ⑤ 教授方法の工夫・開発と効果的な実施	
33	学修成果の点検・評価	概ね達成している
	① 三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用 ② 教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバック	

II. 項目ごとの簡潔な説明

31	① 学科別にDPを策定し、学生ハンドブック、ホームページ等で周知している。 ② 単位認定基準、進級基準、卒業認定基準を定め、周知している。 ③ 各種基準の厳正な適用に努めているが、単位認定基準については、成績評価の継続的な点検が必要である。
32	① 学科別にCPを策定し、学生ハンドブック、ホームページ等で周知している。 ② CPは、DPを踏まえ、令和2（2020）年度に検討を重ね、令和3（2021）年度から変更している。また、カリキュラムマップにおいて、授業科目の対応を示している。 ③ CPに沿った教育課程が体系的に編成されている。 ④ 「学問の裾野を広げ、様々な角度から物事を見ることが出来る能力や自主的、総合的に考える確に判断する能力、豊かな人間性を養い、自分の知識や人生を社会との関係で位置づけることのできる人材を育てる」という教養教育の理念・目的のもとに適切に実施している。 ⑤ FD委員会を中心に、公開授業、各種アンケート、研修等に取り組んでいる。
33	① DPの達成度について、卒業時に学生の自己評価の取り組みを実施しているが、DPルーブリックを導入し、担当教員との面談を通じて、DPの達成度を確認する取り組みを開始した。 ② 入学時のアセスメントテストの実施、結果返却、フォローアップ講座の実施、年度末のDPルーブリックを用いた面談、評価結果の共有により、フィードバックも実施できる仕組みが構築された。

効果が上がっている事項

31	令和2(2020)年度に卒業研究ルーブリックを作成し、当該ルーブリックに基づく成績評価を継続して実施している。
32	特になし
33	令和3年度のアセスメントテストデータの有効活用を考えるFD研修会での意見を受けて、テスト結果の前年度比較等、その有効活用を継続して検証するため、結果報告会を毎年（今年度は6月に）実施し、この3年の傾向等を全学的に共有した。

改善すべき事項

31	「成績評価」結果を踏まえ、基準の改廃やGPA制度の見直しを含め、成績評価基準全体を検証するための仕組みの整備。
32	特になし
33	DPルーブリックの面談結果を検証するための仕組みの整備。

III. 前年度の改善計画に対する取り組み

	■確認欄に記載された内容についての、取り組み状況
31	進級基準を見直した結果、原級留置制度を廃止した。また、学外実習参加基本要件を一部見直した。
33	DPルーブリックの面談結果を収集し、整理した。

IV. 根拠資料

項目 No	根拠 記号	根拠資料の名称
31	①	ディプロマ・ポリシー（学生ハンドブック2023、ホームページ）
31	②	学則、授業科目履修及び試験等に関する規程
31	③	令和5（2023）年度 秋学期末試験要項
32	①	カリキュラム・ポリシー（学生ハンドブック2023、ホームページ）
32	②③④	科目配置表、カリキュラムマップ・カリキュラムツリー・ナンバリング
32	⑤	令和4（2022）年度 FD研修会概要
32	⑤	令和5（2023）年度 公開授業参加報告書
32	⑤	令和6（2024）年度 シラバス作成要領、入力例
33	①②	ディプロマ・ポリシールーブリック、卒業研究ルーブリック
33	①②	ディプロマ・ポリシールーブリックを用いた評価結果の集計
33	①	卒業時アンケート 集計結果
33	②	GPS-Academic 全体結果報告会関連資料
33	①②	学修の記録
33	②	令和4（2022）年度 学修成果（DP）の評価報告書

令和5（2023）年度 自己点検・評価シート 【短】

基準3 教育課程 (3-1 単位認定、卒業認定、修了認定) (3-2 教育課程及び教授方法) (3-3 学修成果の点検・評価)	担当	教務委員会 FD委員会
--	----	----------------

■ 確認

《前年度の改善計画(改善計画がある場合のみ)》

項目No.	改善計画
31	成績評価基準の見直し・・・「成績評価」結果を踏まえ、基準の改廃やGPA制度の見直しを含めた議論が必要である。
32	特になし
33	DP達成度シートの評価結果の分析およびそのフィードバックの方向性の検討の取り組み

■ 自己点検・評価

I. 評定

項目 No	評価項目 <高等教育評価機構の「基準項目」に相当>	現状の自己評価
	点検項目 <高等教育評価機構の「評価の視点」に相当>	
31	単位認定、卒業認定、修了認定	概ね達成している
	① 教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーの策定と周知	
	② ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等の策定と周知 ③ 単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等の厳正な適用	
32	教育課程及び教授方法	概ね達成している
	① カリキュラム・ポリシーの策定と周知	
	② カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの一貫性	
	③ カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成	
	④ 教養教育の実施	
⑤ 教授方法の工夫・開発と効果的な実施		
33	学修成果の点検・評価	概ね達成している
	① 三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用	
	② 教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバック	

II. 項目ごとの簡潔な説明

31	① 学科別にDPを策定し、学生ハンドブック、ホームページ等で周知している。 ② 単位認定基準、進級基準、卒業認定基準を定め、周知している。 ③ 各種基準の厳正な適用に努めているが、単位認定基準については、成績評価の継続的な点検が必要である。
32	① 学科別にCPを策定し、学生ハンドブック、ホームページ等で周知している。 ② CPは、DPを踏まえ、令和2（2020）年度に検討を重ね、令和3（2021）年度から変更している。また、カリキュラムマップにおいて、授業科目の対応を示している。 ③ CPに沿った教育課程が体系的に編成されている。 ④ 「学問の裾野を広げ、様々な角度から物事を見ることができる能力や自主的、総合的に考える確に判断する能力、豊かな人間性を養い、自分の知識や人生を社会との関係で位置づけることのできる人材を育てる」という教養教育の理念・目的のもと適切に実施している。 ⑤ FD委員会を中心に、公開授業、各種アンケート、研修等に取り組んでいる。

33	<p>① DPの達成度について、以前から卒業時に学生が自己評価するアンケートの実施を行っているが、さらに、DP達成度シートを導入し、担当教員との面談を通じて、DPの達成度を確認する取り組みも行っている。</p> <p>② 入学時のアセスメントテストの実施、結果返却、フォローアップ講座の実施、年度末のDP達成度シートを用いた面談、評価結果の共有により、フィードバックも実施できる仕組みが構築された。</p>
----	---

効果が上がっている事項

31	特になし
32	特になし
33	令和3年度のアセスメントテストデータの有効活用を考えるFD研修会での意見を受けて、テスト結果の前年度比較等、その有効活用を継続して検証するため、結果報告会を毎年（今年度は6月に）実施し、この3年の傾向等を全学的に共有した。

改善すべき事項

31	「成績評価」結果を踏まえ、基準の改廃やGPA制度の見直しを含めた議論を行い、一部見直したが、引き続き議論が必要である。
32	「ディプロマポリシー達成度シート」や「学修の記録」の評価結果に基づくカリキュラムポリシーとディプロマポリシーの点検について、その方法が定まっていないため、仕組みについて検討が必要である。
33	DP達成度シートの評価結果の分析およびそのフィードバックの方向性が定まっていないため、それを確立するための取り組みを検討する。

III. 前年度の改善計画に対する取り組み

	■確認欄で記載された内容についての、取り組み状況
31	退学勧告制度の廃止の決定および、実習参加条件の見直しを行った。
33	DP達成度シートの結果を収集し、整理した。

IV. 根拠資料

項目No	根拠記号	根拠資料の名称
31	①	ディプロマ・ポリシー（学生ハンドブック2023、ホームページ）
31	②	学則、授業科目履修及び試験等に関する規程
31	③	令和5（2023）年度 秋学期末試験要項
32	①	カリキュラム・ポリシー（学生ハンドブック2023、ホームページ）
32	②③④	科目配置表、カリキュラムマップ・カリキュラムツリー・ナンバリング
32	⑤	令和4（2022）年度 FD研修会概要
32	⑤	令和5（2023）年度 公開授業参加報告書
32	⑤	令和6（2024）年度 シラバス作成要領、入力例
33	①②	DP達成度シート
33	①	卒業時アンケート 集計結果
33	②	GPS-Academic 全体結果報告会関連資料
33	①②	学修の記録

## 令和5（2023）年度 自己点検・評価シート

<b>基準4</b>	教員・職員（4-1 教学マネジメントの機能性）	担当	学長
------------	-------------------------	----	----

### ■ 確認

《前年度の改善計画(改善計画がある場合のみ)》

項目No.	改善計画
41	特になし

### ■ 自己点検・評価

#### I. 評定

項目No	評価項目 <高等教育評価機構の「基準項目」に相当> 点検項目 <高等教育評価機構の「評価の視点」に相当>	現状の自己評価
41	学生の意見・要望への対応 ① 大学の意思決定と教学マネジメントにおける学長の適切なリーダーシップの確立・発揮 ② 権限の適切な分散と責任の明確化に配慮した教学マネジメントの構築 ③ 職員の配置と役割の明確化などによる教学マネジメントの機能性	達成している

#### II. 項目ごとの簡潔な説明

41	① 学長は企画運営会議と教授会を招集し、意思決定および教学マネジメントにおいて、適切にリーダーシップを発揮している。 ② 組織運営規程において、各委員長等の権限と責任を明確に示し、教学マネジメントを構築し、有効に機能させている。 ③ 事務組織規程において、各部署の業務と権限及び責任を定め、職員を適切に配置している。課長級以上の職員は、各委員会において委員を担うなど、教職協働による大学運営を機能的に行っている。
----	--

効果が上がっている事項

41	特になし
----	------

改善すべき事項

41	特になし
----	------

#### III. 前年度の改善計画に対する取り組み

	■ 確認欄で記載された内容についての、取り組み状況
	特になし

#### IV. 根拠資料

項目No	根拠記号	根拠資料の名称
41	①	理事会業務委任規則
41	①②	組織運営規程
41	①②	大学運営協議会規程
41	①②	教授会規程
41	①②	企画運営会議規程
41	③	事務組織規程
41	③	スタッフ会議設置要綱



## 令和5（2023）年度 自己点検・評価シート

<b>基準4</b>	教員・職員（4-2 教員の配置・職能開発等）	担当	人事委員会・FD委員会
------------	------------------------	----	-------------

### ■ 確認

《前年度の改善計画(改善計画がある場合のみ)》

項目No.	改善計画
42	公開授業の低調な参加率、参加者の固定化（マンネリ化）

### ■ 自己点検・評価

#### I. 評定

項目No	評価項目 <高等教育評価機構の「基準項目」に相当> 点検項目 <高等教育評価機構の「評価の視点」に相当>	現状の自己評価
42	学生の意見・要望への対応	概ね達成している
	① 教育目的及び教育課程に即した教員の採用・昇任等による教員の確保と配置 ② FD(Faculty Development)をはじめとする教育内容・方法等の改善の工夫・開発と効果的な実施	

#### II. 項目ごとの簡潔な説明

42	① 設置基準、各種免許・資格関係の認定基準などで規定する必要専任教員数を確保し、適切に配置している。 ② FD委員会を中心に、教員の資質・能力向上のため、FD研修会や公開授業、各種アンケート等を実施している。
----	---

#### 効果が上がっている事項

42	認証評価で優れた取り組みとされた「授業改善アンケート」について、アンケート結果を授業担当者だけでなく全学的に共有する取り組みを継続する一方で、アンケート自体の改善にもつなげている。
----	--

#### 改善すべき事項

42	公開授業の参加者の固定化等、FDの各活動の課題や改善点などの分析・総括が十分とは言えないため、FD委員会を中心に組みんでいく必要がある。
----	--

#### III. 前年度の改善計画に対する取り組み

	■ 確認欄で記載された内容についての、取り組み状況
	2022年度秋学期に公開授業の期間延長を行ったところ参加率が改善したため、2023年度も期間延長や参加への積極的な呼びかけを実施したものの、再び参加率が低下してしまった。

#### IV. 根拠資料

項目No	根拠記号	根拠資料の名称
42	①	びわこ学院大学教員選考規程
42	②	令和5（2023）年度 授業評価アンケート集計結果
42	②	「授業改善アンケート」教員向け事後アンケート集計結果
42	②	令和5（2023）年度 FD研修会概要
42	②	令和5（2023）年度 公開授業参加報告書



## 令和5（2023）年度 自己点検・評価シート

<b>基準4</b>	教員・職員（4-3 職員の研修）	担当	SD委員会
------------	------------------	----	-------

### ■ 確認

《前年度の改善計画(改善計画がある場合のみ)》

項目No.	改善計画
43	日常業務時にオンライン研修を受講する場合、別室が必要である。

### ■ 自己点検・評価

#### I. 評定

項目No	評価項目 <高等教育評価機構の「基準項目」に相当> 点検項目 <高等教育評価機構の「評価の視点」に相当>	現状の自己評価
43	職員の研修 ① SD(Staff Development)をはじめとする大学運営に関わる職員の資質・能力向上への取組み	概ね達成している

#### II. 項目ごとの簡潔な説明

43	① 全体研修を実施し、研修内容を活かした次年度の計画をSD委員会で協議し決定することができた。
----	---

効果が上がっている事項

43	ZOOMによるオンライン研修に慣れ今後の参加者の増加が見込める。
----	----------------------------------

改善すべき事項

43	学内全体の課題に対してFD・SD合同研修の実施を検討する。
----	-------------------------------

#### III. 前年度の改善計画に対する取り組み

	■確認欄に記載された内容についての、取り組み状況
4-3	第3コンピューター室を用途変更し令和6年度よりセミナー室として研修受講も可能とした。

#### IV. 根拠資料

項目No	根拠記号	根拠資料の名称
43	①	事務職員研修参加一覧

## 令和5（2023）年度 自己点検・評価シート

<b>基準4</b>	<b>教員・職員（4-4 研究支援）</b>	<b>担当</b>	<b>地域・産学連携研究支援委員会</b>
------------	------------------------	-----------	-----------------------

### ■ 確認

《前年度の改善計画(改善計画がある場合のみ)》

項目No.	改善計画
44	科研費の獲得に向けた研修内容の充実

### ■ 自己点検・評価

#### I. 評定

項目 No	評価項目 <高等教育評価機構の「基準項目」に相当> 点検項目 <高等教育評価機構の「評価の視点」に相当>	現状の自己評価
44	<b>研究支援</b> ① 研究環境の整備と適切な運営・管理 ② 研究倫理の確立と厳正な運用 ③ 研究活動への資源の配分	概ね達成 している

#### II. 項目ごとの簡潔な説明

44	① 研究環境の整備の充実に向けた要望について協議した。 ② コンプライアンス研修や啓発活動を実施し、研究倫理を全教職員に浸透させた。 ③ 科研費獲得に向けた研修会や外部資金の情報提供を実施した。
----	---

効果が上がっている事項

44	② 全教職員に向けたコンプライアンス研修の定着
----	-------------------------

改善すべき事項

44	② 研究倫理申請受理に関わるチェック体制について
----	--------------------------

#### III. 前年度の改善計画に対する取り組み

	<b>■ 確認欄で記載された内容についての、取り組み状況</b>
44	科研費の獲得に向けた研修内容を充実させるために、学長の経験に基づく貴重な講話を拝聴する機会を設けた。全教員にとって、非常に有益な学習会となり意欲向上につながった。

#### IV. 根拠資料

項目 No	根拠 記号	根拠資料の名称
44	①	びわこ学院大学・びわこ学院大学短期大学部専任教育職員勤務規程
44	①	びわこ学院大学・びわこ学院大学短期大学部教員研究に関する内規
44	②	びわこ学院大学・びわこ学院大学短期大学部「人を対象とする研究」倫理ガイドライン
44	②	びわこ学院大学・びわこ学院大学短期大学部研究活動の不正行為の防止に関する規程
44	②	令和5（2023）年度コンプライアンス研修会案内
44	②	びわこ学院大学・びわこ学院大学短期大学部「誓約書」
44	②	令和5(2023)年度外部研究費補助金等の不正防止についての啓発活動の案内
44	③	令和5(2023)年度科研費説明会案内
44	③	シラバス 「スタディ・スキルズⅠ」、「スタディ・スキルズⅡ」、「リテラシー入門」
44	③	びわこ学院大学・びわこ学院大学短期大学部外部研究費補助金取扱規程

## 令和5（2023）年度 自己点検・評価シート

<b>基準5 経営・管理と財務</b> (5-1 経営の規律と誠実性) (5-2 理事会の機能) (5-3 管理運営の円滑化と相互チェック) (5-4 財務基盤と収支) (5-5 会計)	担当	法人
--	----	----

### ■ 確認

《前年度の改善計画(改善計画がある場合のみ)》

項目No.	改善計画
51	特になし
52	特になし
53	特になし
54	特になし
55	特になし

### ■ 自己点検・評価

#### I. 評定

項目No	評価項目 <高等教育評価機構の「基準項目」に相当> 点検項目 <高等教育評価機構の「評価の視点」に相当>	現状の自己評価
51	結果の共有	達成している
	① 経営の規律と誠実性の維持	
	② 使命・目的の実現への継続的努力	
	③ 環境保全、人権、安全への配慮	
52	理事会の機能	達成している
	① 使命・目的の達成に向けて意思決定ができる体制の整備とその機能性	
53	管理運営の円滑化と相互チェック	達成している
	① 法人及び大学の各管理運営機関の意思決定の円滑化	
	② 法人及び大学の各管理運営機関の相互チェックの機能性	
54	財務基盤と収支	概ね達成している
	① 中長期的な計画に基づく適切な財務運営の確立	
	② 安定した財務基盤の確立と収支バランスの確保	
55	会計	達成している
	① 会計処理の適正な実施	
	② 会計監査の体制整備と厳正な実施	

#### II. 項目ごとの簡潔な説明

51	① 本学園では、教育基本法及び学校教育法の遵守はもとより、各法令に準拠した規律ある管理運営を行っている。建学の精神や寄附行為に則って関係規程を整備しており、学園関係者は協働しながら法規範に準拠して業務を誠実に行っている。
	② 大学運営に関わる主要事項については、企画運営会議や教授会等に諮る前に、「大学運営協議会」において協議し意見調整が図られており、使命・目的の実現に向けての体制は整備され、機能している。
	③ 本学では、環境への配慮、人権意識の徹底、防災意識の高揚など地域の行政機関等との連携を密にしながら組織的に取り組んでいる。
52	① 学校法人滋賀学園寄附行為において、「理事会」を本学の最高意思決定機関と位置付け、使命・目的の達成に向けて意思決定を迅速に行える体制を整備している。理事、監事及び評議員等の構成は適正で、職務は的確に執行しており、その機能性も確保されている。理事会・評議員会の高い出席率を保つために、開催日時、場所、方法について今後も検討を行う。
53	① 法人と大学の責任者で構成される「大学運営協議会」や法人と事務部門の課長以上で構成する「スタッフ会議」において、法人と大学の意見交換や情報の共有を図っているほか、理事会や評議員会に学長が理事、評議員として出席し、法人と大学の意思決定を円滑に進める体制を整備している。
	② 法人及び大学間相互のチェック体制は有効に機能するとともに、監事及び評議員の職務・使命も法令および寄附行為に則り適正に執行されている。

54	① 「学校法人滋賀学園 中期計画」に基づき令和元（2019）年度から5ヶ年の財務計画表を策定するとともに、3大支出比率である人件費比率・教育研究費比率・管理経費比率の目標値を定めた。目標値及び前年度決算に伴う財務比率については、理事会にて報告し、進捗管理している。
	② 学園全体の財務運営にあたっては、収支の均衡に配慮しながら教育研究内容を向上させることに重点を置き、学校ごとに積み上げた概算要求をもとに予算を編成している。教育研究目的を達成するための運営資金については、学納金や補助金収入、事業収入を財源としているが、外部資金の確保にも重点を置き、学納金収入以外においても収入増加を図っている。
55	① 会計処理は、「学校法人会計基準」及び「経理規程」に準拠して、法人本部及び各学校の総務部門において適正に処理している。
	② 会計監査について、私立学校振興助成法第14条第3項に基づく会計監査人の監査と法人役員 の監事による監査を実施している。

効果が上がっている事項

51	特になし
52	特になし
53	・ 理事、評議員だけでなく、監事についても理事会の資料および意見書を事前に郵送し、当日だけでなく、事前に意見を募ることとしている。
54	法人全体として、補助金事業の申請を積極的に行うことにより、令和5年度は過去5年間で最大の補助金を獲得することができた。
55	特になし

改善すべき事項

51	特になし
52	特になし
53	特になし
54	令和6年度以降も学生生徒園児の定員確保とともに、補助金等外部資金の獲得を継続し行う。
55	特になし

III. 前年度の改善計画に対する取り組み

	■確認欄で記載された内容についての、取り組み状況
	特になし

IV. 根拠資料

項目 No	根拠 記号	根拠資料の名称
5-1	①	学校法人滋賀学園 寄附行為
5-1	①	学校法人滋賀学園 建学の精神
5-1	②	びわこ学院大学・びわこ学院大学短期大学部 大学運営協議会規程
5-1	③	省エネ対策掲示
5-1	③	びわこ学院大学 人権教育推進委員会規程
5-1	③	令和5年度避難訓練実施マニュアル
5-1	③	びわこ学院大学・びわこ学院大学短期大学部 危機管理規程
5-1	③	びわこ学院大学・びわこ学院大学短期大学部 危機管理対応マニュアル
5-2	①	学校法人滋賀学園 寄附行為
5-2	①	学校法人滋賀学園 理事会会議規則
5-2	①	学校法人滋賀学園 理事会業務委任規則
5-3	①	学校法人滋賀学園 寄附行為
5-3	①	学校法人滋賀学園 理事会会議規則
5-3	①	学校法人滋賀学園 理事会業務委任規則
5-3	①	びわこ学院大学・びわこ学院大学短期大学部 大学運営協議会規程
5-3	①	びわこ学院大学・びわこ学院大学短期大学部 スタッフ会議設置要綱
5-3	②	学校法人滋賀学園 理事会会議規則
5-3	②	学校法人滋賀学園 理事会業務委任規則
5-4	①	学校法人滋賀学園 中期計画
5-4	①	令和6年度 予算編成について
5-5	①	学校法人滋賀学園 経理規程
5-5	②	監事監査報告書

## 令和5（2023）年度 自己点検・評価シート

<b>基準6 内部質保証</b> (6-1 内部質保証の組織体制) (6-2 教育課程及び教授方法) (6-3 学修成果の点検・評価)	担当	各学科 自己点検・評価委員会
--	----	-------------------

### ■ 確認

《前年度の改善計画(改善計画がある場合のみ)》

項目No.	改善計画
61	
62	
63	

### ■ 自己点検・評価

#### I. 評定

項目No	評価項目 <高等教育評価機構の「基準項目」に相当> 点検項目 <高等教育評価機構の「評価の視点」に相当>	現状の自己評価
61	内部質保証の組織体制 ① 内部質保証のための組織の整備、責任体制の確立	概ね達成している
62	内部質保証のための自己点検・評価 ① 内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価の実施とその結果の共有 ② IR(Institutional Research)などを活用した十分な調査・データの収集と分析	概ね達成している
63	内部質保証の機能性 ① 内部質保証のための学部、学科、研究科等と大学全体のPDCAサイクルの仕組みの確立とその機能性	概ね達成している

#### II. 項目ごとの簡潔な説明

61	① 教授会の下に「自己点検・評価委員会」を設置し、内部質保証のための組織等、責任体制は確立している。
62	① 「中期目標・中期計画（2019～2023年度）」に基づき、自律的な評価を実施している。
63	① 内部質保証の方針に則り、各委員会、各部局レベルで実施している。

効果が上がっている事項

61	内部質保証の実効性を高める責任体制が構築されている。
62	① 令和2年度より外部評価委員会を設置し、今年度も開催した。
63	① 内部質保証のための方針の明示と、年次計画との関係との精査により、課題発見に役立った。

改善すべき事項

61	改選等構成員の部署変更による影響を受けぬよう、個々の構成員の質保証への留意。
62	専任教職員の補充等、データの計画的・継続的な精査、効果的な活用。
63	課題の優先順位を精査し、ルーブリック評価から、教育の質的改善を図る。

#### III. 前年度の改善計画に対する取り組み

	■ 確認欄で記載された内容についての、取り組み状況
--	---------------------------

#### IV. 根拠資料

項目No	根拠記号	根拠資料の名称
61	①	びわこ学院大学・びわこ学院大学短期大学部 内部質保証の方針、内部質保証の責任・役割（イメージ）
61	①	びわこ学院大学 自己点検・評価委員会規程
61	①	びわこ学院大学 組織図
62	①	びわこ学院大学 中期目標・中期計画（2019～2023年度）
62	①	教育福祉学部 中期目標・中期計画（2019～2023年度）
62	②	びわこ学院大学・びわこ学院大学短期大学部 IR情報保護管理規則
63	①	内部質保証の方針、内部質保証の責任・役割（イメージ）
63	①	卒業研究ルーブリック
63	①	ディプロマ・ポリシー対応ルーブリック